



門川町周辺の 海辺の生き物ガイドブック

新倉弘基・緒方悠輝也・三木涼平（編著）
村瀬敦宣（監修）



宮崎大学農学部附属
フィールド科学教育研究センター延岡フィールド



はじめに

宮崎県は南北に長く、自然豊かな環境を持ち合わせています。特に海に関しては、南から流れてくる暖かい黒潮によって様々な生き物が運ばれてきます。宮崎県の北にある門川町・遠見半島の周辺ではこの黒潮によって運ばれてくる暖かい海の生き物だけではなく、瀬戸内海や日本海にすんでいるものも見つけることができます。さらに門川町の周りには様々な海の地形を探することができます。例えば、下の写真は門川町にある保井ヶ浜(やすいがはま)というところ です。ここには小さいながらも、手前には砂浜、奥には岩場があって、そこでは潮が引くと潮だまり(タイドプール)ができます。浜には小川が流れ込んでおり、少し古くなった防波堤もあります。これらの場所では、それぞれの環境を好む色々な生き物を見ることができます。この本は、そんな門川町・遠見半島の身近な海辺で採集・観察できる生き物を、魚を中心に収録しています。この本を読んだ皆さんが、門川町周辺の海辺の楽しさを今にも増して感じていただけることを願ってやみません。

2018年2月 編者・監修者



<表紙の写真>

左上:クサフグ(丸バエ川)

右上:アライソコケギンポ(金磯)

中央:遠見半島の門川町側から見た枇榔島

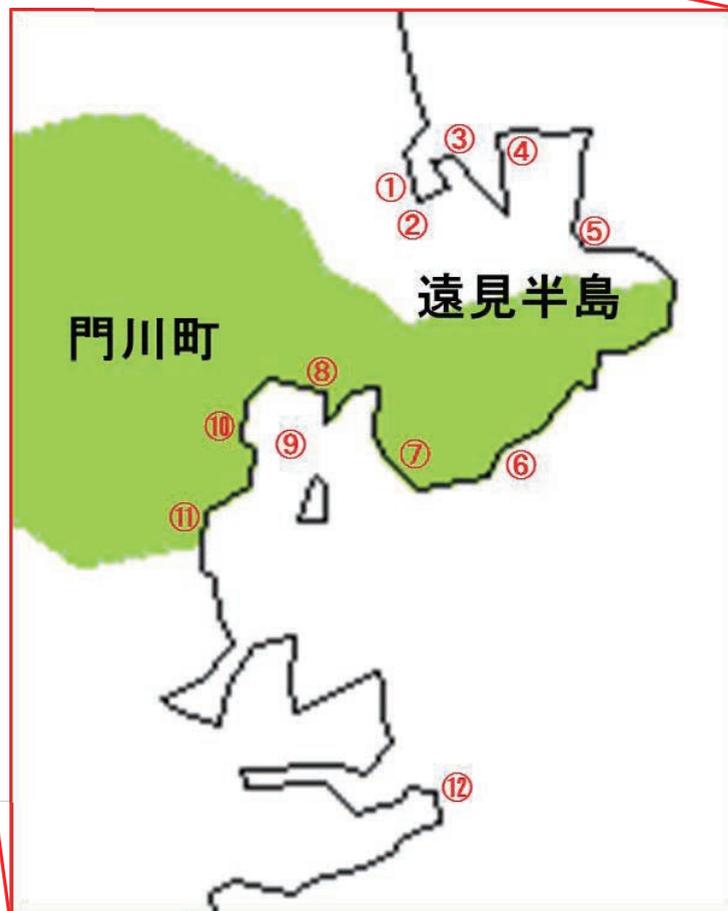
左下:ツマグロスジハゼ(庵川西)

右下:ヒラスズキ(五十鈴川)

門川町周辺生き物採集MAP

このガイドに載っている生き物の採集場所は以下の通りです

- | | | |
|-----------|--------|--------|
| ① 土々呂港 | ⑤ 檜ヶ浜 | ⑨ 門川湾 |
| ② 妙見湾・浦上川 | ⑥ 保井ヶ浜 | ⑩ 鳴子川 |
| ③ 鯛名町 | ⑦ 金磯 | ⑪ 五十鈴川 |
| ④ 赤水町 | ⑧ 丸バエ川 | ⑫ 日向岬 |



白地図の出典: <http://www.craftmap.box-i.net/>

このガイドブックの見方

—生き物のすんでいる場所を表すシンボル—

- | | | |
|---------------------------------|--------------------------|---------------|
| 岩 : 岩場 | 海 : 浅い海 | 河 : 河口 |
| 砂 : 砂地 | タ : タイドプール (潮だまり) | |
| 堤 : 防波堤 | 泥 : 泥地 | 干 : 干潟 |
| 藻 : 藻場 (藻や海草が集まって生えている所) | | |

—その他のシンボル—

- | | | |
|---------------------------|---------------|------------------|
| ♂ : オス | ♀ : メス | 滅 : 絶滅危惧種 |
| 危 : 攻撃的もしくは毒を持つ生き物 | | |

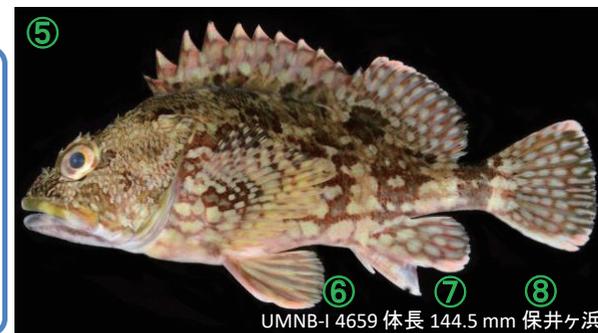
スズキ目メバル科カサゴ属①

カサゴ (ががら)②

岩 堤

*Sebastiscus marmoratus*③

肉食性で、小魚やカニなどを丸のみで食べる。防波堤や岩場で簡単に釣れる。味もよく、唐揚げや煮つけがよい。お店でもよくみかけるおなじみの魚。(三木)④



UMNB-I 4659 体長 144.5 mm 保井ヶ浜

- | | |
|-------------|---------------------------|
| ① 生き物の分類※ | ⑤ 証拠標本の写真 ¹⁾ |
| ② 生き物の標準和名※ | ⑥ 写真標本の整理番号 ²⁾ |
| ③ 生き物の学名※ | ⑦ 写真標本の大きさ ³⁾ |
| ④ 解説と著者名 | ⑧ 写真標本の採集地 ⁴⁾ |

※魚類の分類と掲載順番は、基本的に日本産魚類検索第3版(中坊, 2013)に基づく。テンジクダイ科とフグ科の1部は、それぞれ馬淵ほか(2015)とMatsuura (2017)に従った。一部の魚類は“()”の中に俗称をひらがなで表記した。

- 1) 幼魚の特徴がみられる場合には、写真の左上に“幼魚”と記載している。
- 2) 宮崎大学農学部付属延岡フィールドで使用している整理番号。標本は神奈川県立生命の星・地球博物館に登録済み、または登録していく予定で、これらの番号はオリジナル標本番号として博物館では記録されている。
- 3) “体長”は鼻先から尾びれの付け根の長さ。“全長”は鼻先から尾びれの終わりまでの長さ。“体盤幅”は、エイの大きさを表す単位であり、体の最大の幅を表す。
- 4) 採集地の名称は前ページの地図のものに対応している。

目次

はじめに	1	キス科	19
門川町周辺生き物採集MAP	2	チョウチョウウオ科	20
ガイドブックの見方	3	スズメダイ科	21
魚類		シマイサキ科	22
トビエイ目		タカベ科	23
アカエイ科	5	カゴカキダイ科	23
ウナギ目		メジナ科	23
ウツボ科	5	ベラ科	24
アナゴ科	6	カジカ科	26
ゴンズイ目		トラギス科	26
ゴンズイ科	6	ヘビギンボ科	27
アンコウ目		コケギンボ科	27
カエルアンコウ科	6	イソギンボ科	27
トゲウオ目		ネズッポ科	31
ヨウジウオ科	7	ハゼ科	31
ボラ目		クロユリハゼ科	37
ボラ科	7	マンジュウダイ科	37
トウゴロウイワシ目		クロホシマンジュウダイ科	38
トウゴロウイワシ科	8	アイゴ科	38
スズキ目		カマス科	38
メバル科	8	サバ科	38
フサカサゴ科	9	カレイ目	
ハオコゼ科	9	ヒラメ科	39
オニオコゼ科	9	フグ目	
コチ科	10	フグ科	39
スズキ科	11	ハリセンボン科	40
ハタ科	12	さかな採りにいこう!	41
タナバタウオ科	13	門川町周辺のカニ	42
テンジクダイ科	13	門川町周辺のエビ	43
アジ科	14	門川町周辺のヤドカリ	43
ヒイラギ科	16	索引	44
フエダイ科	16	あとがき	46
クロサギ科	18	参考文献&著者紹介	47
タイ科	18	書籍情報	48

アカエイ

河砂危

Dasyatis akajei



普段は砂に潜って目だけを砂から出している。尾に毒のある鋭いトゲがあるので、釣れてもさわらないようにしよう。(三木)

ウナギ目ウツボ科ウツボ属

アミメウツボ

岩堤危

Gymnothorax pseudothyrsoides



大きな鋭い歯を持っていて、魚肉を食いちぎって食べる。浅い岩場の隙間にもいるため注意が必要。うかつに触れると噛まれて大けがをする。防波堤から魚の切り身で釣れることもある。鍋にするとおいしい。(三木)

クロアナゴ

岩 堤

Conger japonicus

アナゴの仲間の中でも特に大きな種類で、全長1メートルを超えることがある。身は固く、皮はまるでゴムのようだが、工夫すればおいしく食べられる魚である。(三木)



UMNB-I 1843 全長 435.2 mm 赤水町

ゴンズイ目ゴンズイ科ゴンズイ属

ゴンズイ

岩 堤 砂 河 危

幼魚

Plotosus japonicus

背びれと胸びれに毒をもったトゲがあつて危険。「ゴンズイ玉」と呼ばれる球形の群れをつくる。(新倉)



UMNB-I 1386 全長 22.6 mm 浦上川

UMNB-I 1365 全長 162.9 mm 浦上川

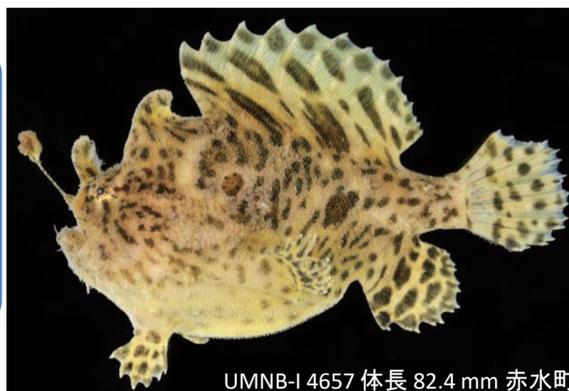
アンコウ目カエルアンコウ科カエルアンコウ属

カエルアンコウ

岩 堤 砂

Antennarius striatus

口の上からはえているエスカという釣り竿を使って小魚を誘い出して食べる。胸びれを前足のように使って海底を移動する。(新倉)



UMNB-I 4657 体長 82.4 mm 赤水町

ヨウジウオ

砂 藻 河

Syngnathus schlegelii



UMNB-I 1297 体長 225.8 mm 土々呂港

小さくて棒のような体をしているので、見つけるのはなかなか難しい。浅い海の藻場の周りで生活している。タツノオトシゴの仲間。宮崎県でみかけることはあまりない。(三木)

トゲウオ目ヨウジウオ科ヒバシヨウジ属

ノコギリヨウジ

岩

Doryrhamphus japonicus



UMNB-I 81 体長 69.5 mm 金磯

うすいオレンジ色の体に青色の線が走り、よく見るととてもきれい。細い口でプランクトンなどを食べている。(三木)

ボラ目ボラ科フウライボラ属

フウライボラ

岩 タ

Crenimugil crenilabis

幼魚



UMNB-I 1760 体長 55.3 mm 赤水町

唇にたくさんのヒダがついていることからほかのボラと区別できる。川に入ることほとんどない。(村瀬)

ボラ

海河

Mugil cephalus cephalus

胸びれの付け根の上に青い斑点がある。水面で飛び跳ねる大きな魚の正体はこれ。卵はカラスミの材料。(三木)

UMNB-I 5857
体長 89.7 mm 丸バエ川

トウゴロウイワシ目トウゴロウイワシ科

成魚でも全長15cm程度の小魚で、群れで泳ぐ。体色が銀色の魚の多くは、背中が青色をしていて、空から海を見た時の青色と海底から水面を見た時の銀色に溶け込むことで、鳥や大型の魚から見つかりにくくしている。これを保護色と言う。(三木)

ムギイワシ属

ムギイワシ

岩タ

Atherion elymus

UMNB-I 4660 体長 51.6 mm 保井ヶ浜

ギンイソイワシ属

ギンイソイワシ

岩堤

Hypoatherina tsurugae

UMNB-I 4503 体長 107.7 mm 赤水町

スズキ目メバル科カサゴ属

カサゴ (ががら)

岩堤

Sebastiscus marmoratus

肉食性で、小魚やカニなどを丸のみで食べる。防波堤や岩場で簡単に釣れる。味もよく、唐揚げや煮つけがよい。お店でもよくみかけるおなじみの魚。(三木)



UMNB-I 4659 体長 144.5 mm 保井ヶ浜

ミノカサゴ

岩堤危

Pterois lunulata

小魚や小型の甲殻類を食べ、釣れることもあるが、**背びれのトゲに強い毒**があるため触るときには注意が必要。その美しい姿から観賞魚としての人気が高く、食用にもなる。(新倉)

UMNB-I 3203
体長 110.0 mm 日向岬

スズキ目ハオコゼ科ハオコゼ属

ハオコゼ

岩堤危

Hypodytes rubripinnis

小柄な姿とは裏腹に**背びれに強い毒**をもち、刺されると数日間痛む。防波堤で釣りをしてると外道でもよくかかるので、うかつに触らないように注意が必要。(三木)



UMNB-I 1296 71.8 mm 土々呂港

スズキ目オニオコゼ科オニオコゼ属

オニオコゼ

砂危

Inimicus japonicusUMNB-I 4003
体長 95.4 mm 土々呂港

やや深い場所に生息しているので普段見ることはないが、ときおり岸から釣れることもある。この魚も**背びれに強い毒**をもつので注意が必要。味は良く、高級魚として扱われる。(三木)

コチの仲間は、ふだんは砂底でじっとして、茶色く平べったい体を砂に同化させているため見つけることは難しい。その反面、食欲旺盛なためルアーなどで簡単に釣ることができる。刺身や唐揚げにするとおいしいが、たくさん獲れる魚ではないので、あまり商業利用はされていない。（三木）

イネゴチ属

イネゴチ

砂

Cociella crocodila

UMNB-I 4488 体長 279.0 mm 土々呂港

イネゴチは、マゴチよりも両目の間隔がせまく、トカゲゴチよりも体にある黒点が大きく、やや緑色をしていることでこれらの2種と見分けられる。

トカゲゴチ属

トカゲゴチ

砂

Inegocia japonica

UMNB-I 4487 体長 196.8 mm 鯛名町

トカゲゴチは、マゴチに比べると両目の間隔がせまく、トカゲゴチよりも体にある模様があらう茶色をしていることでこれらの2種類と見分けられる。

ヒラスズキ

岩河

Lateolabrax latus

UMNB-I 5350 体長 151.0 mm 五十鈴川

小魚やカニなどを好んで食べ、ルアーで釣れる。ヒラスズキを狙って釣りに行く人も多い。成魚は外海に面した磯に現れるが、川にも入る。旬は冬の寒い時期で、とてもおいしい魚。（三木）

スズキ

岩砂河

Lateolabrax japonicus

UMNB-I 387 体長 104.8 mm 妙見湾

シーバスとよばれる人気の釣魚。ヒラスズキに比べ全体的に細長く、体の斑点がある場合は大きく目立つ。白身でおいしい魚はあるが、ヒラスズキに比べると味は落ちる。（三木）

ハタの仲間は味がよく、きれいな種類は観賞用としても人気。寿命が長く、大きく成長する。岩場やサンゴ礁に生息するが、小さい時は防波堤からでも釣れ、幼魚は潮だまりでも見れる。(新倉)

ユカタハタ属

アオノメハタ 岩 夕

Cephalopholis argus



マハタ属

オオモンハタ 岩 堤

Epinephelus areolatus



マハタ属

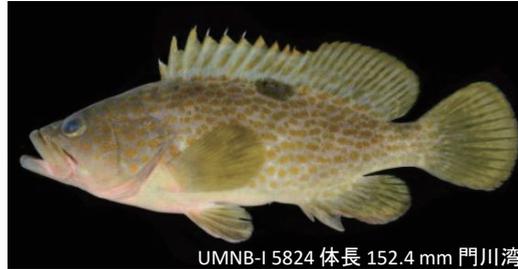
ハクテンハタ 岩 夕

Epinephelus coeruleopunctatus



キジハタ 岩 堤

Epinephelus akaara



アオハタ 岩 堤

Epinephelus awoara



チャイロマルハタ 岩 河

Epinephelus coioides



タナバタウオ 岩 夕

Plesiops coeruleolineatus

浅い岩場の石の影に隠れていることが多い。エビなどを食べる。オレンジ色の背びれや長い腹びれが特徴。飼育しやすい。(新倉)



スズキ目テンジクダイ科①

テンジクダイの仲間には、卵を口にくわえてその中で守る口内保育をする種類がいる。ほかの魚の外道として釣れるが、そのまま揚げたり、塩焼き、煮つけ等にとよい。(新倉・緒方)

スジイシモチ属

オオスジイシモチ 岩 堤

Ostorhinchus doederleini



クロホシイシモチ 岩 堤

Ostorhinchus notatus



ネンブツダイ 岩 堤

Ostorhinchus semilineatus

これらスジイシモチ属の3種は習性が異なり、オオスジイシモチは単独でいることが多いが、ほかの2種は群れをなして行動する。(村瀬)



スジイシモチ属

コンゴウテンジクダイ

岩

Ostorhinchus fleurieu

日本では2015年に和名がついたばかりの熱帯性のテンジクダイの仲間。門川湾では2016年に右の写真の1個体が定置網で採集されただけで、とても珍しい種類。(村瀬)



UMNB-I 1589 体長 50.5 mm 門川湾

カクレテンジクダイ属

クロイシモチ

岩 堤 砂

Apogonichthyoides niger



UMNB-I 1594 体長 73.6 mm 赤水町

ヨコスジイシモチ

岩 堤 砂

Apogonichthyoides sialis



UMNB-I 479 体長 94.9 mm 赤水町

スズキ目アジ科マアジ属

マアジ

岩 堤

Trachurus japonicus



UMNB-I 4514 体長 82.7 mm 門川湾

日本の重要な海産魚。沿岸から沖合に生息し、群れで回遊している。防波堤のサビキ釣りで手軽に釣れる。小さいのものは唐揚げがよく、他に刺身や塩焼きでおいしい。(三木・新倉)

宮崎県では平たく銀色のアジ類を「エバ」や「メッキ」と呼び、お店で見かけることもしばしば。熱帯域の魚だが、夏から冬にルアー釣りでも狙うことができる。(緒方・村瀬)

カスミアジ

岩 堤 河

Caranx melampygus

胸びれは黄色く、尾びれは黄色くならないことから、下の2種と異なる。門川湾周辺ではあまり多くない。(緒方・村瀬)

幼魚



UMNB-I 2444 体長 58.2 mm 門川湾

ギンガメアジ

岩 河

Caranx sexfasciatus

尾びれは黄色く、ふちが黒くなり、エラぶたの上に小さな黒点があることから他の2種と区別できる。県北では最も多いエバ類。(緒方・村瀬)

幼魚



UMNB-I 396 体長 56.3 mm 妙見湾

ロウニンアジ

岩 河

Caranx ignobilis

尾びれの下半分が黄色くなり、顔が長くなることから他の2種と区別できる。門川湾周辺では数も多く、およそ50cmの大きさまで見つかっている。(緒方・村瀬)

幼魚



UMNB-I 395 体長 61.1 mm 妙見湾

ヒイラギ

砂河

Nuchequula nuchalis

口が前方に飛び出すようになっていて、これで砂の中の小動物を探して食べる。体からネバネバした液を出すため、宮崎では「鼻たれエバ」と呼ばれている。（緒方・村瀬）



UMNB-I 6107
体長 76.3 mm 土々呂港

スズキ目フエダイ科フエダイ属

ゴマフエダイ

岩河

Lutjanus argentimaculatus

幼魚



UMNB-I 1826
体長 15.7 mm 妙見湾

全長70cmに達する大型の魚。琉球列島などの暑い地域に多い魚のため、宮崎県では成魚は少ないものの、夏に川で幼魚または若魚をしばしば見る。成魚はシガテラ毒の報告もあるため、釣れても食べないようにしよう。（三木）

クロホシフエダイ

岩河

Lutjanus russellii



UMNB-I 4737 体長 145.1 mm 鯛名町

幼魚



UMNB-I 5852 体長 49.0 mm 丸バエ川

体に大きな黒い点があるのが特徴。幼魚のころは河口によく出現する。市場では20cm程度の大きさが多く、稀に50cmを超える個体も水揚げされている。県北で最も多いフエダイ類。（三木）

フエダイ

岩タ河

Lutjanus stellatus

宮崎県ではシブダイとよばれる高級魚。宮崎県の南部に多く生息しており、もともとは県北にはあまりいなかったようだ。夏の夜のフカセ釣りで人気の魚。（三木）

幼魚



UMNB-I 1597 体長 26.2 mm 金磯

イッテンフエダイ

岩タ

Lutjanus monostigma

幼魚



UMNB-I 1774
体長 45.4 mm 赤水町

クロホシフエダイによく似ているが、幼魚の時の縦じまがなく、沖縄などの熱帯域に多い。幼魚はタイドプールで見られる。この魚もシガテラ毒の報告があるため、釣れても食べない方が無難。（三木）

オキフエダイ

岩河

Lutjanus fulvus



UMNB-I 5851 体長 61.0 mm 丸バエ川

全身が黄色く、とても目立つフエダイの仲間。この種類も琉球列島などの熱帯域に多く、宮崎では少ないが、夏から秋にかけて小さいものは河口で釣れることもある。（三木）

ダイョウサギ 河砂

Gerres japonicus



UMNB-I 4083
体長 74.6 mm 丸バエ川

クロサギ 河砂

Gerres equulus



UMNB-I 5854
体長 109.6 mm 丸バエ川

ダイョウサギは体がやや高く、腹びれが黄色くなる。(緒方)

スズキ目タイ科ヘダイ属

ヘダイ (せたい) 岩河

Rhabdosargus sarba

幼魚は河口域にも入る。口先はとがらず丸くなる。刺身にするとおいしい。(村瀬)

スズキ目タイ科クロダイ属

クロダイ 岩堤河

Acanthopagrus schlegelii

警戒心が高く、釣るのは難しい。雑食で、スイカを餌にして釣る地域もある。(三木)

キチヌ 堤河

Acanthopagrus latus

腹びれや尾びれが黄色い。警戒心はが低く、比較的釣りやすい。(三木)



UMNB-I 5855
体長 100.3 mm 丸バエ川



UMNB-I 5850
体長 73.6 mm 丸バエ川



UMNB-I 4078
体長 125.1 mm 丸バエ川

マダイ 岩海砂

Pagrus major



UMNB-I 5279
体長 97.5 mm 門川湾

幼魚は内湾や沿岸の藻場に生息し、大きくなると岸から離れた深場へ移動する。お祝い事の際によく食べられる。産卵期の4月から6月にかけては浅場へと移動してくるため、陸からも大物が釣れることもある。(三木)

スズキ目タイ科チダイ属

チダイ 岩砂

Evynnis tumifrons



UMNB-I 139
体長 74.3 mm 門川湾

背びれの前から3, 4番目のトゲが糸状に伸びることが特徴。大きいものはやや深い場所で釣れるが、小型は岸から釣れることもある。マダイよりも値段が安く、お祝いの際にマダイの代わりとして使われることも多い。(三木)

スズキ目キス科キス属

シロギス 堤砂

Sillago japonica

砂底を泳ぎまわり、危険を感じると砂に潜る。旬は暑い時期で、キス釣りは夏の風物詩の1つ。(三木)



UMNB-I 1591 体長 149.6 mm 赤水町

薄い円形の体に細くすぼめた口が特徴的。色彩は様々で、観賞魚としての人気が高い。ほとんどの種が熱帯から温帯の浅い岩場・サンゴ礁にすんでいるが、水深300m以深に生息している種類もある。プランクトン等の小さい動物を食べ、幼魚は潮だまりにいることもある。熱帯域では食用にもされる。(新倉)

トゲチョウチョウウオ 岩 堤

Chaetodon auriga

目を通る黒い横帯、体の斜めのシマ模様と、背びれ後方の大きな黒い斑点が特徴。成長すると背びれの後が糸のようになる。(新倉)



UMNB-I 2734 体長 84.0 mm 門川湾

アケボノチョウチョウウオ 岩 堤

Chaetodon melannotus

目を通る黒い横帯、体の斜めのシマ模様と尾びれの付け根の大きな黒点の特徴。宮崎県北部では比較的によく見かける種類。(新倉)



UMNB-I 5578
体長 15.4 mm 赤水町

チョウチョウウオ 岩 堤

Chaetodon auripes

目を通る黒い横帯の後ろに、白い横帯がある。体は全体的にオレンジがかった黄色で、多数の黒い縦線がある。尾びれには黒い横線があり、その後は透明。寒さに強く、チョウチョウウオの仲間の中では北の方にまで出現する種類である。(新倉)



UMNB-I 1736 体長 54.9 mm 門川湾

熱帯から温帯にかけて、岩場やサンゴ礁に生息する。幼魚は潮だまりで見つけることもできる。成長段階や生息地域によって色が異なったり、興奮具合によって色が変化する種も多い。(新倉)

オヤビッチャ属

シマスズメダイ 岩 タ

Abudefduf sordidus

幼魚



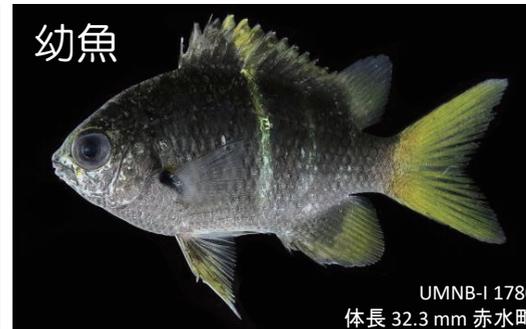
UMNB-I 1317
体長 25.2 mm 土々呂港

体の横帯2本が背びれの黒斑とつながり、逆U字型になることからシチセンスズメダイと区別できる。(新倉)

イソスズメダイ 岩 タ

Abudefduf notatus

幼魚



UMNB-I 1780
体長 32.3 mm 赤水町

全体的に暗い灰色で、尾びれは黄色い。背びれ中央の黄色い模様は、成魚になると消える。(新倉)

シチセンスズメダイ 岩 タ

Abudefduf septemfasciatus

幼魚



UMNB-I 2062
体長 20.6 mm 金磯

体の横帯は1本しか背びれの黒斑とつながらない。(新倉)

オヤビッチャ 岩 タ

Abudefduf vaigiensis

幼魚



UMNB-I 1764
体長 28.1 mm 赤水町

明瞭な横帯が数本ある。成魚の背面は黄色い。(新倉)

ルリスズメダイ属

ネズスズメダイ 岩タ

Chrysiptera glauca

目の上に青色蛍光色のラインがある。体色やひれも青味があり区別しやすい。(新倉)

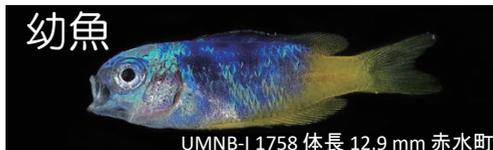


ソラスズメダイ属

ソラスズメダイ 岩タ堤

Pomacentrus coelestis

ソラスズメダイは黒く変色しやすい。生きている時は鮮やかな水色～青色をしており、尾びれの付け根は黄色。(新倉)



スズキ目シマイサキ科コトヒキ属

コトヒキ 海河

Terapon jarbua



コトヒキは、体のシマが弓のように曲がっているが、ヒメコトヒキは、体のシマが直線になる。(緒方)

スズキ目シマイサキ科シマイサキ属

シマイサキ 海河

Rhyncopelates oxyrhynchus

上の2種類とは異なり、尾びれに目立つ帯がない。塩焼きがおいしい。(村瀬・緒方)

ヒメコトヒキ 海

Terapon theraps



タカベ 岩堤

Labracoglossa argentiventris

日本と朝鮮半島だけに生息している。群れを作って泳ぎ、サビキ釣りで釣れる。背中から尾びれにかけての黄色い線が特徴の魚である。(三木)



スズキ目カゴカキダイ科カゴカキダイ属

カゴカキダイ 岩堤

Microcanthus strigatus

黄色と黒の縞模様が特徴。一見すると観賞用の熱帯魚に見えるが、実は知る人ぞ知る非常においしい魚。全長20cm程度の小さな魚なので、鱗をとって塩焼きや煮つけで食べるとよい。(三木)



スズキ目メジナ科メジナ属

オキナメジナ 岩タ堤

Girella mekina

メジナの仲間の中では、沖縄に多く生息する南方系の種類。門川湾では夏から秋にかけて浅い岩場や潮だまりで幼魚が見られる。体の中央に黄色い線があるのが特徴。(三木)



メジナ

岩 堤

Girella punctata



UMNB-I 5906
体長 89.9 mm 赤水町

クロメジナ

岩 堤

Girella leonina



UMNB-I 5905
体長 115.3 mm 赤水町

メジナが防波堤や沿岸の磯場に多い一方、クロメジナは流れの強い沖合の磯場に多い。非常に似ているが、クロメジナの方が長く大きな尾びれをもつため、メジナは"グレ"、クロメジナは"オナガグレ"と呼ばれている。メジナとクロメジナは冬の磯釣り魚の代表種で、脂がのって非常に美味。一方で夏は磯臭くなり値段も落ちる。"梅雨グレ"と呼ばれる6月のメジナの方が好きという人もいる。(三木)

スズキ目ベラ科

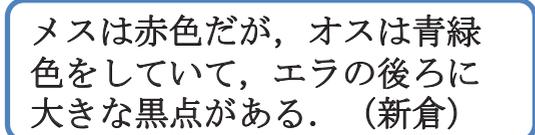
世界の暖かい海に約500もの種類が分布している。岩場や砂底、サンゴ礁等の環境を好む。幼魚は潮だまりでも見られる。同じ種類でも、性別・成長段階によって色や模様が異なり、非常に多様な色彩の魚である。成長するにつれて、メスからオスに性転換するベラもいる。釣りでかかる種類もいる。(新倉・緒方)

キュウセン属

キュウセン

砂 堤

Parajulis poecileptera



UMNB-I 2096 体長 149.4 mm 赤水町

メスは赤色だが、オスは青緑色をしていて、エラの後ろに大きな黒点がある。(新倉)

ホンベラ

岩 砂

Halichoeres tenuispinis



UMNB-I 1756 体長 111.7 mm 赤水町

岩場に生息する。オスはメスに比べて色鮮やか。(新倉)

ササノハベラ属

ホシササノハベラ

岩 堤

Pseudolabrus sieboldi



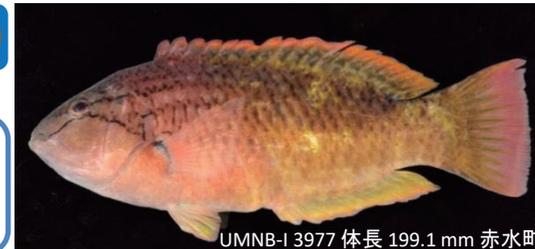
UMNB-I 3987 体長 100.5 mm 赤水町

よく釣れるベラの一つ。背中に白点がある。アカササノハベラに比べて小型が多い。(緒方)

アカササノハベラ

岩 堤

Pseudolabrus eoethinus



UMNB-I 3977 体長 199.1 mm 赤水町

目から頬を通る黒色線が目立つ。投げ釣りでよく釣れ、から揚げが美味。(緒方)

カミナリベラ属

カミナリベラ

岩

Stethojulis interrupta terina



UMNB-I 2304 体長 33.7 mm 赤水町

幼魚は、体の中央を黒色線が走ることが特徴。(新倉)

ニシキベラ属

ニシキベラ

岩 堤

Thalassoma cupido



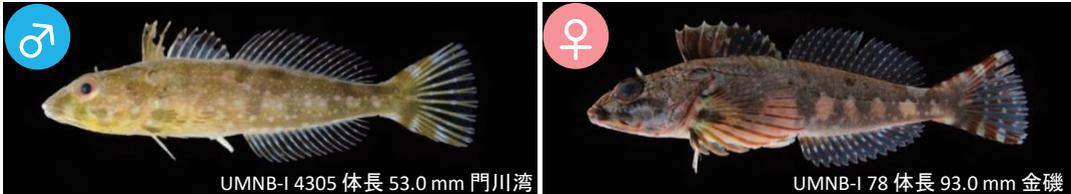
UMNB-I 3985 体長 106.8 mm 赤水町

青と緑の体色に、赤い骨のような模様があり、他のベラと簡単に区別できる。(村瀬)

アナハゼ

岩 藻

Pseudoblennius percoides



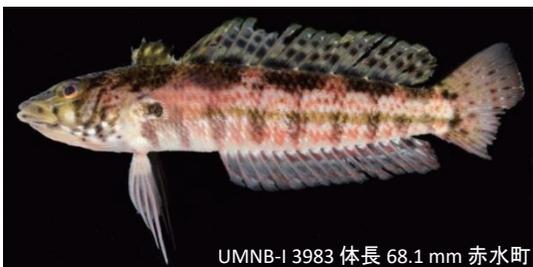
寒い地域に多いカジカ科の中では、宮崎で見られる数少ない1種類。門川湾より南の地域にはほとんどいない。身は緑色で毒々しいが、天ぷらにするとおいしい。(三木)

スズキ目トラギズ科トラギズ属

コウライトラギス

砂

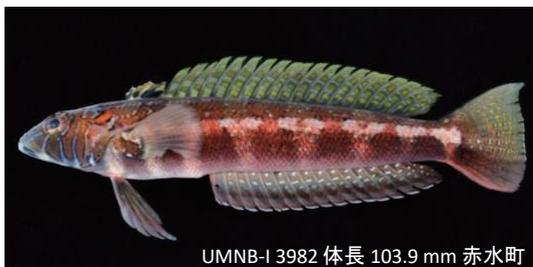
Parapercis snyderi



トラギス

砂

Parapercis pulchella



これらの2種は岩場の浅い砂底や砂礫底に生息する。肉食性でエビやカニなどを食べるため、投げ釣りの外道として釣れることもある。トラギスは天ぷらや骨せんべいになるとおいしい。産卵期は夏で、メスからオスに性転換する事で知られている。(新倉)

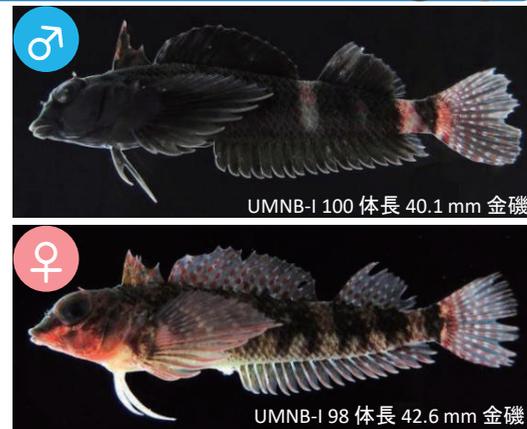


肉食性なので、ソフトルアーで釣れることもある。海は何が釣れるかわからないのが楽しい。

ヘビギンポ

岩 堤

Enneapterygius etheostomus



口がとがり、背びれが3つある。産卵期になるとオスは黒くなり、岩の上に縄張りをつくる。メスはその中に卵を産む。浅い場所におり、臆病な魚なので、近づくとすぐに隠れてしまう。(村瀬)

スズキ目コケギンポ科コケギンポ属

コケギンポ

岩

Neoclinus bryope



眼の上に細かく枝分かれした皮弁(ひべん)があり、背びれの前方に斑点がある。岩場のすき間やカキ殻の中にすむ。(村瀬)

アライソコケギンポ

岩

Neoclinus okazakii



コケギンポよりも潮通しの良い場所にすむ。口の中が黄色く、体のひし形の模様はコケギンポに比べて明確にわかる。(村瀬)

最大10cm程の小魚で体は細長い。眼は頭の上であり、口は下を向く。眼の上に様々な形の皮弁（ひべん）があり、種類によってその形は異なる。暖かい海の岩場やサンゴ礁にすみ、潮だまりで見つかる種類も多い。とてもすばやい。（村瀬）

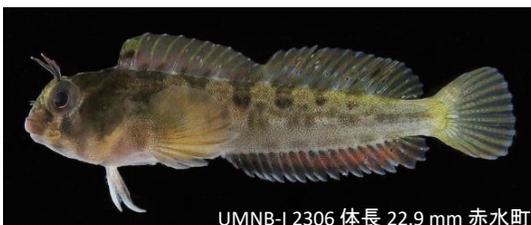
イソギンポ属

タテガミギンポ属

イソギンポ

岩

Parablennius yatabei



UMNB-I 2306 体長 22.9 mm 赤水町

タテガミギンポ

岩 タ

Scartella emarginata



UMNB-I 1772 体長 46.9 mm 赤水町

岩場の穴やカキ殻の中でよく見つかる。成長すると眼の上の皮弁は長くのび、羽のようになる。（村瀬）

イソギンポに似るが、両目の間に一列の皮弁があることで区別できる。浅い岩場や潮だまりにすむ。（村瀬）

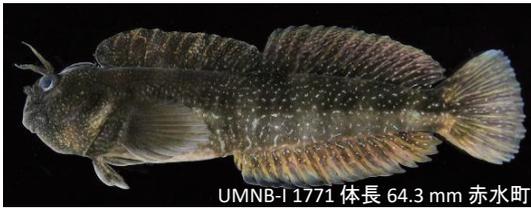
スズギンポ属

タネギンポ属

ホシギンポ

岩

Entomacrodus stellifer stellifer



UMNB-I 1771 体長 64.3 mm 赤水町

タマギンポ

岩 タ

Praealticus bilineatus



UMNB-I 1064 体長 59.9 mm 金磯

眼の上の皮弁は糸のようになる。潮通しのよい岩場の浅い所にすむ。（村瀬）

体には白い点がついていて、眼の上の皮弁は葉っぱのような形をしている。潮だまりにすんでいる。（村瀬）

センカエルウオ

岩 タ

Istiblennius lineatus



UMNB-I 2061 体長 30.9 mm 金磯

体は白または灰色をしていて、細かい線がある。眼の上の皮弁は多数に枝分かれする。（村瀬）

カエルウオ属

カエルウオ

岩 タ

Istiblennius enosimae



UMNB-I 4658 体長 88.9 mm 保井ヶ浜

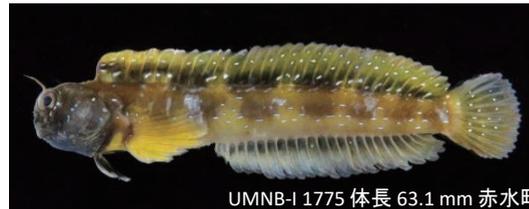
イソギンポの仲間では大きく、10cm程になる。体の色は緑がかっていて、体にはいくつかの帯がある。産卵期は夏で、オスは潮だまりの中に巣穴をかまえ、その周りに他の生きものを追い払ってなわばりをつくる。（村瀬）

ロウソクギンポ属

ロウソクギンポ

岩 タ

Rhabdoblennius nitidus



UMNB-I 1775 体長 63.1 mm 赤水町

体は全体的に黄色か緑色がかっていて、眼の上に糸のような皮弁をつけている。産卵期のオスの顔は黒くなり、メスが近づくと巣穴から頭をふる。（村瀬）

ヤエヤマギンポ属

シマギンポ

岩

Salarias luctuosus

UMNB-I 86 体長 39.9 mm 金磯

体は茶色がかっていて、たくさんの白い線や点がある。胸びれの前のオレンジ色の斑点がよく目立つ。タイドプールにいたこともある。(村瀬)

ナベカ属

イダテギンポ

堤 タ 河

Omobranchus punctatus

UMNB-I 1766 体長 76.6 mm 赤水町

頭に皮弁はなく、体全体が暗い茶色をしていて、体には細かい線が数本のびる。河口やタイドプールなど、いろいろなところに現れる。(村瀬)

クモギンポ

岩 タ

Omobranchus loxozonus

UMNB-I 1777 体長 62.2 mm 赤水町

頭に皮弁はなく、体は黄色または緑で、斜めの帯が並んでいる。岩にあいた穴やカキ殻の中にすんでいる。(村瀬)

ハタタテギンポ属

ニジギンポ

岩 堤 危

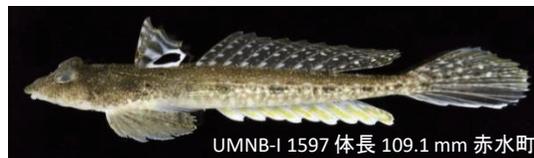
Petrosciartes breviceps

UMNB-I 1460 体長 64.3 mm 門川湾

海藻やロープの周りを漂っていることが多い。体は全体的に茶色く、眼の後から尾びれまでのびる黒い帯がある。口は小さいが、強い犬歯を持っており、釣りあげたときは注意が必要。(村瀬)

ネズミゴチ

砂 堤

Repomucenus curvicornis

UMNB-I 1597 体長 109.1 mm 赤水町

キス釣りの外道で良く釣れる。全身にヌメリがあるが、天ぷらにすると美味しい。(緒方)

スズキ目ハゼ科①

ハゼの仲間は種類が多く、色彩や形も色々で、河川や海のあらゆる環境に生息している。腹びれが特徴的で、吸盤状か二またに分かれている。吸盤状の腹びれは水底や壁に張り付く事ができ、水の流れが速い環境でも流されずに生息できる。多くのハゼが底生性で、生命力が高い。(新倉)

ミミズハゼ属

ミミズハゼ

河

Luciogobius guttatus

UMNB-I 6074 体長 44.1 mm 五十鈴川

イソミミズハゼ

岩

Luciogobius sp. 6

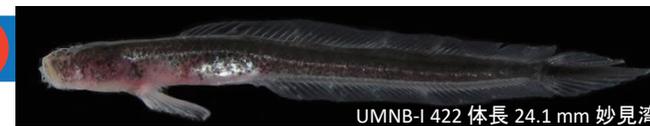
UMNB-I 1865 体長 33.0 mm 門川湾

ミミズハゼの仲間は、小さなウナギのような見た目をしている。潮だまりの石の下や、河口・海岸の砂利の中に隠れている。動きが素早く、手で捕まえても隙間を通り抜けて逃げようとする。ミミズハゼの仲間は、姿が似ているため分類が難しく、今後も種数が増減すると思われる。(新倉)

チワラスボ属

チワラスボ

泥 干

Taenioides sp. B

UMNB-I 422 体長 24.1 mm 妙見湾

目が退化しており、ウロコがない。河口や内湾の泥の中に潜っており、底生生物を食べる。日本産のチワラスボは複数の種類に分かれるといわれている。泥に入るのは大変危険なので、決して1人で採集に行かないようにしましょう。(新倉)

トビハゼ属

トビハゼ

河 干 減

Periophthalmus modestus



UMNB-I 5360 体長 27.3 mm 五十鈴川

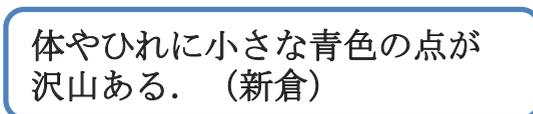
河口の水際や干潟にすんでいる。空中で生活し、敵が近づくと小刻みに跳びながら素早く逃げる。(新倉)

ホシハゼ属

ホシハゼ

岩

Asterropteryx semipunctata



体やひれに小さな青色の点が沢山ある。(新倉)



UMNB-I 1604 体長 36.2 mm 門川湾

マハゼ属

マハゼ

海 河 砂

Acanthogobius flavimanus



UMNB-I 4079 体長 128.2 mm 丸ノエ川

ハゼ科の代表魚。河口や内湾の砂泥底に生息する。非常においしい魚で、天ぷらや甘露煮がよい。夏になると浅場に多くなる。旬は9~10月頃で、ハゼ釣りは秋の風物詩の1つ。(新倉)

アシシロハゼ

河 砂

Acanthogobius lactipes



UMNB-I 4080 体長 50.2 mm 丸ノエ川

河口の浅い砂底に生息している。マハゼに似るが、尾びれの付け根に二またの黒い模様があることが特徴。(新倉)

アベハゼ属

アベハゼ

河 泥 干

Mugilogobius abei



UMNB-I 56 体長 28.1 mm 妙見湾

体の前半分には横帯、後ろ半分には縦帯がある。(新倉)

スナゴハゼ属

マサゴハゼ

河 干 減

Pseudogobius masago



UMNB-I 1015 体長 23.3 mm 妙見湾

とても小さな種類で、干潟の埋め立てにより、数が少なくなっている。(新倉)

チチブ属

アカオビシマハゼ

岩 夕 河

Tridentiger trigonocephalus



UMNB-I 1605 体長 46.8 mm 門川湾

チチブに似ているが、体の縦帯と、しりびれにある赤い線で見分けられる。(新倉)

ヌマチチブ

河

Tridentiger brevispinis



UMNB-I 6073 33.4 mm 五十鈴川

チチブ

河

Tridentiger obscurus



UMNB-I 4084 体長 61.5 mm 丸ノエ川

これらの2種は非常によく似ているが、チチブは背ひれが糸状に伸びるのに対し、ヌマチチブは伸びず、頬にある白点はチチブの方が密集している。また、ヌマチチブは河川の中流~下流に生息するが、チチブは河口の汽水域に生息し、若干の棲み分けもされている。県北では黒ずんだハゼを「ゴモクロ」と呼ぶ。(新倉)

ヒナハゼ属

ヒナハゼ

河

Redigobius bikolanus



UMNB-I 6075 体長 16.5 mm 五十鈴川

河川の下流～河口域にすむ。体中の網目模様が特徴的。成長しても3cm程度のハゼ。(新倉)

クモハゼ属

クモハゼ

岩 タ

Bathygobius fuscus



UMNB-I 1043 体長 33.3 mm 金磯

岩礁の潮だまりにすむ。背びれのふちに白い帯があることが特徴。(新倉)

クロコハゼ属

クロコハゼ

河 砂 泥

Drombus sp.



UMNB-I 1864 体長 39.3 mm 門川湾

内湾や河口の砂泥底に生息する。産卵期には、オスの背びれ・尾びれの上部は黄色くなり、しりびれ・尾びれの下部は水色がかかる。(新倉)

ヨシノボリ属

ゴクラクハゼ

河

Rhinogobius giurinus



UMNB-I 6071 体長 30.8 mm 五十鈴川

河川下流から河口の汽水域に生息する。体に青く光る斑点がある。(新倉)

クモハゼ属

クロヤハズハゼ

岩 タ

Bathygobius coalitus



UMNB-I 2066 体長 25.0 mm 金磯

熱帯性のハゼで、岩礁の潮だまりにすんでいる。(村瀬)

スジクモハゼ

岩 タ

Bathygobius cocosensis



UMNB-I 2056 体長 31.0 mm 金磯

南方系のハゼで、南にいくとクモハゼより多い(村瀬)

ウロハゼ属

ウロハゼ

河

Glossogobius olivaceus



UMNB-I 58 体長 102.7 mm 妙見湾

河口域に生息し、岩の影などに隠れてる。下あごが上あごより前に出ている。日本のハゼの中では大型で、20cmを超える。食用になる。(新倉)

ヤハズハゼ

岩 タ

Bathygobius cyclopterus



UMNB-I 2042 体長 30.7 mm 金磯

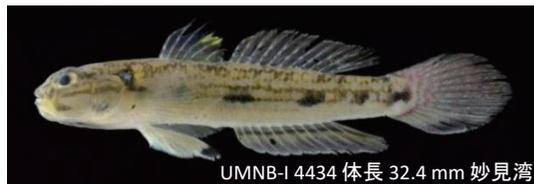
岩場に生息し、潮だまりでも見られる。頭部の後ろと尾びれの付け根前方が、白色になることがある。(新倉)

キララハゼ属

ツマグロスジハゼ

河 干

Acentrogobius sp. 2



UMNB-I 4434 体長 32.4 mm 妙見湾

河口域や干潟に生息し、テッポウエビと共生していることがある。名前の通り、腹びれの端(つま)が黒く、体の5個の黒点も特徴の1つである。生きている時は多数の小さな青色点がある。(新倉)

ヒメハゼ属

ヒメハゼ

河干

Favonigobius gymnauchen



UMNB-I 1830 体長 23.8 mm 妙見湾

ミナミヒメハゼ

河干

Favonigobius reichei



UMNB-I 5975 体長 15.5 mm 妙見湾

ヒメハゼの尾びれ付け根の黒点は二またに分かれるが、ミナミヒメハゼは丸くなることから区別できる。(新倉)

クツワハゼ属

クツワハゼ

岩堤砂

Istigobius campbelli



UMNB-I 1607 体長 59.2 mm 門川湾

岩場のある海岸や浅瀬の砂底に生息しており、漁港内で釣れることもある。目の後ろの黒い縦帯や頬の青白い点が特徴。(新倉)

アゴハゼ属

アゴハゼ

岩タ

Chaenogobius annularis

体に白い横帯があり、胸びれと尾びれに点列があることでドロメと区別できる。(新倉)



UMNB-I 84 体長 49.1 mm 金磯

ドロメ

岩タ

Chaenogobius gulosus



UMNB-I 1773 体長 89.5 mm 赤水町

岩場のある海岸や潮だまりに生息する。体に白色点があることや尾びれの外周が白いことが特徴。(新倉)

イソハゼ属

ミナミイソハゼ

岩タ

Eviota japonica



UMNB-I 1053 体長 18.6 mm 金磯

イソハゼ

岩タ

Eviota abax



UMNB-I 4740 体長 26.9 mm 赤水町

イソハゼの仲間は腹びれが吸盤状にならない。この2種類は浅い岩場やタイドプールに生息する。目の後の黒い斑点が二つあるのがミナミイソハゼ、一つあるのがイソハゼである。(村瀬)

スズキ目クロユリハゼ科サツキハゼ属

ベニツケサツキハゼ

河堤

Parioglossus philippinus



UMNB-I 2310 体長 30.3 mm 門川湾



UMNB-I 2705 体長 27.8 mm 門川湾

カキ殻の周りを群れで漂っている。サツキハゼによく似るが、尾びれの黒い模様はベニツケサツキハゼでは丸みがあってやや下を向く。(村瀬)

スズキ目マンジュウダイ科ツバメウオ属

ナンヨウツバメウオ

海堤

Platax orbicularis



UMNB-I 1596 体長 56.3 mm 赤水町

水面を枯葉のような形で漂っており、捕まえやすい。枯葉の形をしているのは幼魚の時だけで、成長すると形が変わっていく。(緒方)

クロホシマンジュウダイ

河 幼魚

Scatophagus argus

熱帯域に生息し、宮崎県では主に幼魚が採れる。沈んでいる障害物の周りで見かけることが多い。(緒方)



スズキ目アイゴ科アイゴ属

アイゴ

岩 堤 危

Siganus fuscescens

岩場やサンゴ礁域に生息する。褐色の体に多数の白点が特徴。おいしい魚だが、**背・腹・しりびれのトゲには毒がある**ため注意が必要。(新倉)



スズキ目カマス科カマス属

オニカマス

海 河

ヤマトカマス

海

Sphyræna barracuda

Sphyræna japonica



カマスの仲間は、細長い体に大きな口と鋭い歯が特徴。肉食で、ルアーで釣れる。主に浅い海に生息する。オニカマスの幼魚は河口に入ることもあり、成長すると**1.5m**を超える。(新倉)

スズキ目サバ科サバ属

マサバ

海 堤

Scomber japonicus

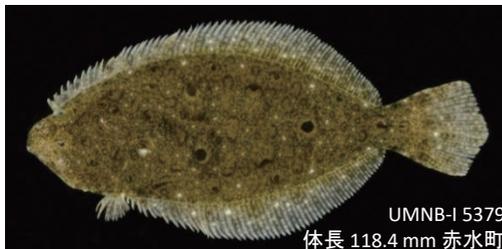


海を群れで回遊しており、サビキで釣ることができる。おいしい魚だが、傷みやすいため生で食べるときは注意が必要。(新倉)

ヒラメ

河 砂

Paralichthys olivaceus



フグ目フグ科キタマクラ属

キタマクラ

岩 堤 危

Canthigaster rivulata

和名は、亡くなった人を北枕に寝させる習慣から由来しており、**皮膚・肝臓・腸に毒がある**。エサ取りで釣り人を困らせる。(新倉)



フグ目フグ科トラフグ属

ヒガンフグ

海 危

Takifugu pardalis

体の表面はイボ状の突起でおおわれていて、ゴツゴツしている。河口で釣れることもある。**皮と内臓に強い毒がある**。(新倉)



コモンフグ

海 河 危

Takifugu flavipterus

2017年に新種であることがわかったフグ。体の白点はクサフグより大きい。**内臓に猛毒がある**。(村瀬)



クサフグ

海砂河危

Takifugu alboplumbeus

よく砂の中に潜っている。初夏、大潮の満潮時に、入り組んだ地形の波打ち際で集団産卵を行う。猛毒をもつフグの一つで、**食用は厳禁**。(新倉・村瀬)



UMNB-I 4082 体長 74.6 mm 丸ノエ川

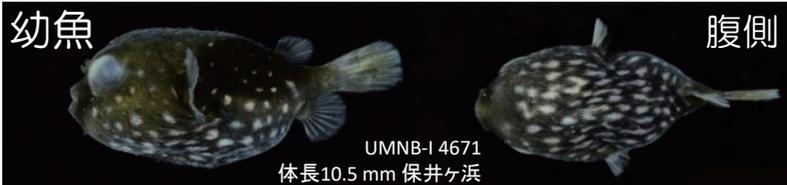
フグ目フグ科モヨウフグ属

サザナミフグ

海河危

Arothron hispidus

幼魚



腹側

UMNB-I 4671
体長10.5 mm 保井ヶ浜

熱帯性で、宮崎では幼魚が多い。黒い体色に多くの白点があり、お腹には白と黒の波模様がある。**身に毒があることも**。(新倉)

フグ目フグ科サバフグ属

シロサバフグ

海

Lagocephalus spadiceus

金フグとして宮崎県では知られ、とてもおいしい。**ドクサバフグのように有毒で非常に似た種類がいるため、自分で同定・調理しようとはしない事**。(新倉)



UMNB-I 2025 体長 145.8 mm 赤水町

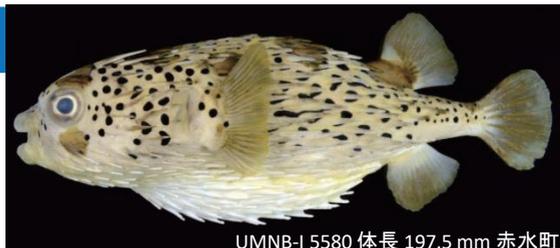
フグ目ハリセンボン科ハリセンボン属

ハリセンボン

海

Diodon holocanthus

危険があると体をふくらませてトゲを立てる。(新倉)



UMNB-I 5580 体長 197.5 mm 赤水町

さかな採りにいこう！

海や川の近くを通るとき、水の中をのぞいてみてください。大きなクロダイが水面近くを泳いでいる姿や、ハゼやギンポの仲間が岸壁のカキ殻の中に入り出す姿をよく観察できます。それらの魚たちをもっと近くで観察することで、新たな発見があるかもしれません。

ここでは魚たちと触れ合うことができる方法をご紹介します。

★手網による採集

干潟や潮だまり、漁港の岸壁にいる小魚は手網で捕まえることができます。人が近づくと、魚は隠れたり、逃げたりしますが、動かずにいると警戒心を解いてくれるので、網が届く距離まで近づいてくるのを待ち伏せしましょう。せまい場所なら、追い込んで魚を捕まえることもできます。捕まえた魚は虫かごなどに入れて観察してみましましょう。長い時間観察する場合は、エアポンプを用意してあげてください。

★釣りによる採集

釣りは昔から日本人に慣れ親しまれてきた遊びの一つです。門川町周辺でも、釣り人や釣具屋を見かけます。特に個人経営の釣具屋は、近所の穴場スポットをよく知っていたり、手造りの仕掛けを置いてあったりします。また、その豊富な経験から釣りのことを色々教えてくれます。釣りに興味ができたらぜひ訪問してみてください。



岸壁では思わぬ魚に出会うことも！



キチヌはルアーで簡単に釣れるターゲット

※海や川は自然です。予期せぬことも起こるので、必ず**保護者の方と一緒に、ライフジャケットなどを着用して**出かけるようにしましょう。潮の満ち引きにも注意してください。

門川町周辺で見られるカニ

砂浜、河口、干潟や磯など浅い水辺では様々なカニを見つけることができる。見た目以外にも、隠れ方や歩き方など色々な違いが見られるので、ぜひ観察してみてください。ただし、小さくてもハサミの力は強いので、触れるときは十分注意すること。（新倉）

イシガニ



UMNB-C 74 土々呂港

イソクスガニ



UMNB-C 142 金磯

イソガニ



UMNB-C 77 赤水町

ヒライソガニ(黒)



UMNB-C 75 赤水町

ヒライソガニ(白)



UMNB-C 18 金磯

イボイワオウギガニ



UMNB-C 95 赤水町

オウギガニ



UMNB-C 22 赤水町

キンセンガニ



UMNB-C 520 土々呂港

ベニツケガニ



UMNB-C 132 金磯

モクスガニ



UMNB-C 80 浦上川

門川町周辺で見られるエビ

エビは、世界中のあらゆる水環境に様々な種類が生息している一方で、カニやヤドカリと違って乾燥した陸上で生息することはできない。水際に生えている植物の影や潮だまりの中を探したり、防波堤から海の中をのぞくと、たくさんのエビを観察することができる。干潟に多いテッポウエビの仲間は、ハゼ類と一緒に巣穴にいることがある。目のいいハゼが、お互いの天敵をいち早く見つけ、テッポウエビの作った巣穴と一緒に隠れることで、生き残る確率を上げている。こういった協力関係を共生という。一緒に飼育して観察してみると面白いかもしれない。（新倉）

イソスジエビ



UMNB-C 31 金磯

テッポウエビ



UMNB-C 527 丸バエ川

門川町周辺で見られるヤドカリ

ヤドカリは、貝殻を背負って生活している。その名の通り「宿(を)借り」ているだけで、カメの甲羅の様に、成長と共に殻が大きくなる訳ではない。そのため、体が大きくなると新しい貝殻への引っ越しが必要。基本的には空になった貝を探す。生きた貝から殻を奪うこともある。イソギンチャクを殻に付けているヤドカリもいて、タコなどの外敵から身を守ってもらっている。これによってイソギンチャクは生活範囲を広げ、ヤドカリの食べ残しをもらうことができる。これも共生の1つである。（新倉）

イソカニダマシ



UMNB-C 31 金磯

テナガツノヤドカリ



UMNB-C 528 丸バエ川

索引

あ

アイゴ	38
アオノメハタ	12
アオハタ	12
アカエイ	5
アカオビシマハゼ	33
アカササノハベラ	25
アケボノチョウチョウウオ	20
アゴハゼ	36
アシシロハゼ	32
アナハゼ	24
アベハゼ	33
アミメウツボ	5
アライソコケギンポ	27
イシガニ	42
イソガニ	42
イソカニダマシ	43
イソギンポ	28
イソクズガニ	42
イソスジエビ	43
イソスズメダイ	21
イソハゼ	37
イソミミズハゼ	31
イダテンギンポ	30
イッテンフエダイ	17
イネゴチ	10
イボイワオウギガニ	42
ウロハゼ	35
オウギガニ	42
オオスジイシモチ	13
オオモンハタ	12
オキナメジナ	23
オキフエダイ	17
オニオコゼ	9
オニカマス	38
オヤビッチャ	21

か

カエルアンコウ	6
カエルウオ	29
カエルウオモドキ	29

カゴカキダイ	23
カサゴ	8
カスミアジ	15
カミナリベラ	26
キジハタ	12
キタマクラ	39
キチヌ	18
キュウセン	25
ギンイソイワシ	8
ギンガメアジ	15
キンセンガニ	42
クサフグ	40
クツワハゼ	36
クモギンポ	30
クモハゼ	34
クロアナゴ	6
クロイシモチ	14
クロコハゼ	35
クロサギ	18
クロダイ	18
クロホシイシモチ	13
クロホシフエダイ	16
クロホシマンジュウダイ	38
クロメジナ	24
クロヤハズハゼ	34
コウライトラギス	26
ゴクラクハゼ	35
コケギンポ	27
コトヒキ	22
ゴマフエダイ	16
コモンフグ	39
コンゴウテンジクダイ	14
ゴンズイ	6

さ

サザナミフグ	40
シチセンスズメダイ	21
シマイサキ	22
シマギンポ	30
シマスズメダイ	21
シロギス	19

シロサバフグ	40
スジクモハゼ	34
スズキ	11
センカエルウオ	29
ソラスズメダイ	22

た

ダイミョウサギ	18
タカベ	23
タテガミギンポ	28
タナバタウオ	13
タマギンポ	28
チダイ	19
チチブ	33
チャイロマルハタ	12
チョウチョウウオ	20
チワラスボ	31
ツマグロスジハゼ	35
テッポウエビ	43
テナガツノヤドカリ	43
トカゲゴチ	10
トゲチョウチョウウオ	20
トビハゼ	32
トラギス	26
ドロメ	36

な

ナンヨウツバメウオ	37
ニシキベラ	26
ニジギンポ	30
ヌマチチブ	33
ネズスズメダイ	22
ネズミゴチ	31
ネンブツダイ	13
ノコギリヨウジ	7

は

ハオコゼ	9
ハクテンハタ	12
ハリセンボン	40
ヒイラギ	16
ヒガンフグ	39

ヒナハゼ	34
ヒメコトヒキ	22
ヒメハゼ	36
ヒライソガニ	42
ヒラスズキ	11
ヒラメ	39
フウライボラ	7
フエダイ	17
ヘダイ	18
ベニツケガニ	42
ベニツケサツキハゼ	37
ヘビギンポ	27
ホシギンポ	28
ホシササノハベラ	25
ホシハゼ	32
ボラ	8
ホンベラ	25

ま

マアジ	14
マサゴハゼ	33
マサバ	38
マダイ	19
マハゼ	32
ミナミイソハゼ	37
ミナミヒメハゼ	36
ミノカサゴ	9
ミミズハゼ	31
ムギイワシ	8
メジナ	24
モクズガニ	42

や

ヤハズハゼ	34
ヤマトカマス	38
ヨウジウオ	7
ヨコスジイシモチ	14

ら

ロウソクギンポ	29
ロウニンアジ	15

あとがき

本の出版というと小説を執筆することを想像します。題材が歴史や文化なら関連地域を取材し、SFなら科学をかじり、ファンタジーなら神話を勉強したりして、あらゆる資料を集めてから執筆にのぞむ印象があります。図鑑の出版も、具体的な工程は違えども「あらゆる資料を集めてから執筆にのぞむ」という点では同じです。生き物を採集して写真を撮り、標本を作成し、管理・保管出来る環境を整え、掲載種の確かな情報を揃えてからページ造りを行います。もちろん、それ程の作業を一人でできるはずもなく、全ての過程で様々な人や組織の援助を受け、ここまでたどり着くことができました。この本を無事に出版できたことと、出版過程で多くの勉強をさせて頂いたことに対し、関わった全ての人にこの場を借りて感謝の意を表したいと思います。

まず、生物相調査にあたっては、延岡市漁業協同組合、門川町役場、庵川漁業協同組合、門川漁業協同組合に便宜をはかって頂きました。生物採集には、庵川漁業協同組合の和田正昭氏、白梅学園短期大学の宮崎佑介博士、水産庁の尾坂利夕人氏、琉球大学理工学研究科の國島大河氏、名水小学校の教職員、児童および保護者の皆様、堀脇風輝氏、向井実佳氏、石丸哲也氏、藤島伊吹氏、山崎裕太氏、大野蒼一郎氏、鹿島祥平氏、藤井千尋氏、ロマス・ジュニア・貴氏、安藤康平氏、大川楓賀氏、渋谷風雅氏、津守康成、湯浅美晴氏をはじめとする宮崎大学農学部海洋生物環境学科の方々のご協力を得ました。また、宮崎大学農学部附属延岡フィールドの内田勝久附帯施設長、道下保技術職員、藤代剛教務職員には延岡フィールドにおける調査・出版作業にあたって便宜をはかって頂きました。証拠標本の管理・保管に関しては神奈川県立生命の星・地球博物館の瀬能宏博士にご協力を賜りました。調査・出版にあたっては、門川町からの委託を受けて実施する連携事業「門川町の魚類生態系及びカンムリウミスズメの調和に関する研究」およびJSPS科研費15H06514、笹川科学研究助成金(29-737)、藤原ナチュラルヒストリー振興財団、宮崎大学平成29年度戦略重点経費、宮崎大学産学・地域連携センターの補助を受けて行う事業「さかなのまち門川町の魅力を伝える環境教育の構築」の助成を受けました。

改めまして、編著者・監修者一同心より御礼を申し上げます。誠に有り難うございました。

2018年2月 編者・監修者

—参考文献—

- 岩坪洸樹・加藤紳・本村浩之. 2016. 南九州類群の海水魚. 鹿児島水圏生物博物館. 80pp.
- 加藤昌一. 2011. スズメダイ(ネイチャーウォッチングガイドブック). 誠文堂新光社. 239pp.
- 加藤昌一. 2014. 改訂新版 海水魚ひと目で特徴がわかる図解付き(ネイチャーウォッチングガイドブック). 誠文堂新光社. 383pp.
- 加藤昌一. 2016. ベラ&ブダイ:日本で見られる192種+幼魚、成魚、雌雄、婚姻色のバリエーション(ネイチャーウォッチングガイドブック). 誠文堂新光社. 319pp.
- 川那部 浩哉・水野 信彦・細谷和海. 2005. 日本の淡水魚(山溪カラー名鑑). 山と溪谷社. 719pp.
- 環境省(編). 2015. レッドデータブック2014—日本の絶滅の恐れのある野生生物—4 汽水・淡水魚類. ぎょうせい. 414pp.
- 馬淵浩司・林 公義・Thomas H. Fraser. 2015. テンジクダイ科の新分類体系にもとづく亜科・族・属の標準和名の提唱. 魚類学雑誌 第62巻: 29-49
- 松沼瑞樹・福井美乃・本村浩之. 2016. 鹿児島市の川魚図鑑. 鹿児島大学総合研究博物館. 86pp.
- Matsuura, K. 2017. Taxonomic and nomenclatural comments on two puffers of the genus *Takifugu* with description of a new species, *Takifugu flavipterus*, from Japan (Actinopterygii, Tetraodontiformes, Tetraodontidae). Bull. Natl. Mus. Nat. Sci, Ser. A, 43: 71-80
- Miki, R., Murase, A. and Wada, M., 2017. Record of a perch sculpin, *Pseudoblennius percoides* (Teleostei: Cottidae), from the eastern coast of Kyushu, southern Japan. Biogeography, 19: 1-4
- 村瀬敦宣・和田正昭・三木涼平・宮崎佑介. 2017. 宮崎県門川湾で採集されたコンゴウテンジクダイ *Ostorhinchus fleurieu* の標本に基づく北限記録. 日本生物地理学会会報 第71巻: 183-187
- 中坊徹次. 2013. 日本産魚類検索 全種の同定 第三版. 東海大学出版会.
- 岡村収・尼岡 邦夫. 1997. 日本の海水魚(山溪カラー名鑑). 山と溪谷社. 783pp.
- 瀬能 宏(監修). 2004. 決定版 日本のハゼ. 平凡社. 536pp.
- 渡部哲也. 2014. 海辺のエビ・ヤドカリ・カニ ハンドブック. 文一総合出版. 104pp.

編著者

◆新倉 弘基(しんくら ひろき)

宮崎大学大学院農学研究科海洋生物環境科学コース 修士課程1年

◆緒方 悠輝也(おがた ゆきや)

宮崎大学農学部海洋生物環境学科 4年

◆三木 涼平(みき りょうへい)

宮崎大学農学工学総合研究科生物機能応用科学専攻
博士後期課程 3年

監修者

◆村瀬 敦宣(むらせ あつのぶ)

宮崎大学農学部海洋生物環境学科 助教

※編著者・監修者は宮崎大学農学部附属延岡フィールドに常駐

門川町周辺の海辺の生き物ガイドブック

ISBN 978-4-909630-00-1
発行日 2018年3月15日
編著者 新倉弘基・緒方悠輝也・三木涼平
監修者 村瀬敦宣
写真撮影 村瀬敦宣・三木涼平・緒方悠輝也・新倉弘基
発行所 宮崎大学農学部附属フィールド科学教育研究センター
延岡フィールド
〒889-0517
宮崎県宮崎市赤水町376-6
宮崎大学農学部附属延岡フィールド
Tel : 0982-37-0327
<http://www.miyazaki-u.ac.jp/fsce/index.htm>
印刷所 ラクスル株式会社
〒141-0021
東京都品川区上大崎2-24-9 アイケイビル1F
<https://corp.raksul.com/>

Citation:

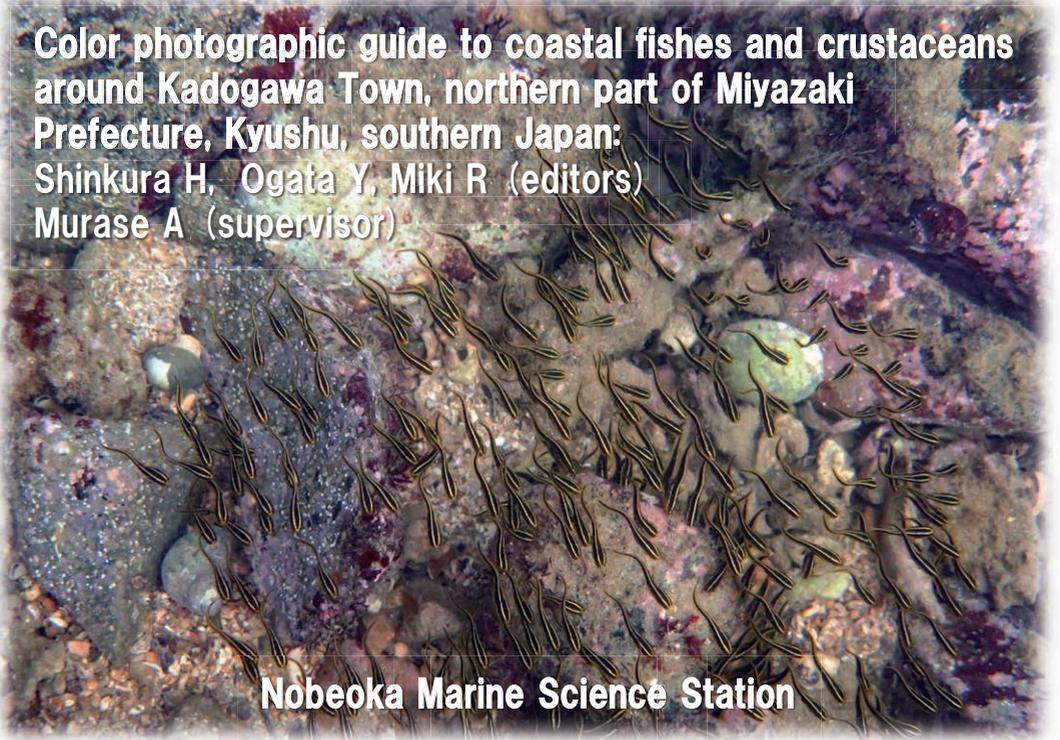
Shinkura H, Ogata Y, Miki R (editors), Murase A (supervisor). 2018. Color photographic guide to coastal fishes and crustaceans around Kadogawa Town, northern part of Miyazaki Prefecture, Kyushu, southern Japan. Nobeoka Marine Science Station, Field Science Center, University of Miyazaki, Nobeoka. 48 pp.

<裏表紙の写真>

左上:オオモンハタの幼魚(鯛名町)
右上:チチブ(丸バエ川)
中央:ゴンズイの群れ(金磯)
下:トカゲゴチ(鯛名町)



**Color photographic guide to coastal fishes and crustaceans
around Kadogawa Town, northern part of Miyazaki
Prefecture, Kyushu, southern Japan:
Shinkura H, Ogata Y, Miki R (editors)
Murase A (supervisor)**



Nobeoka Marine Science Station

